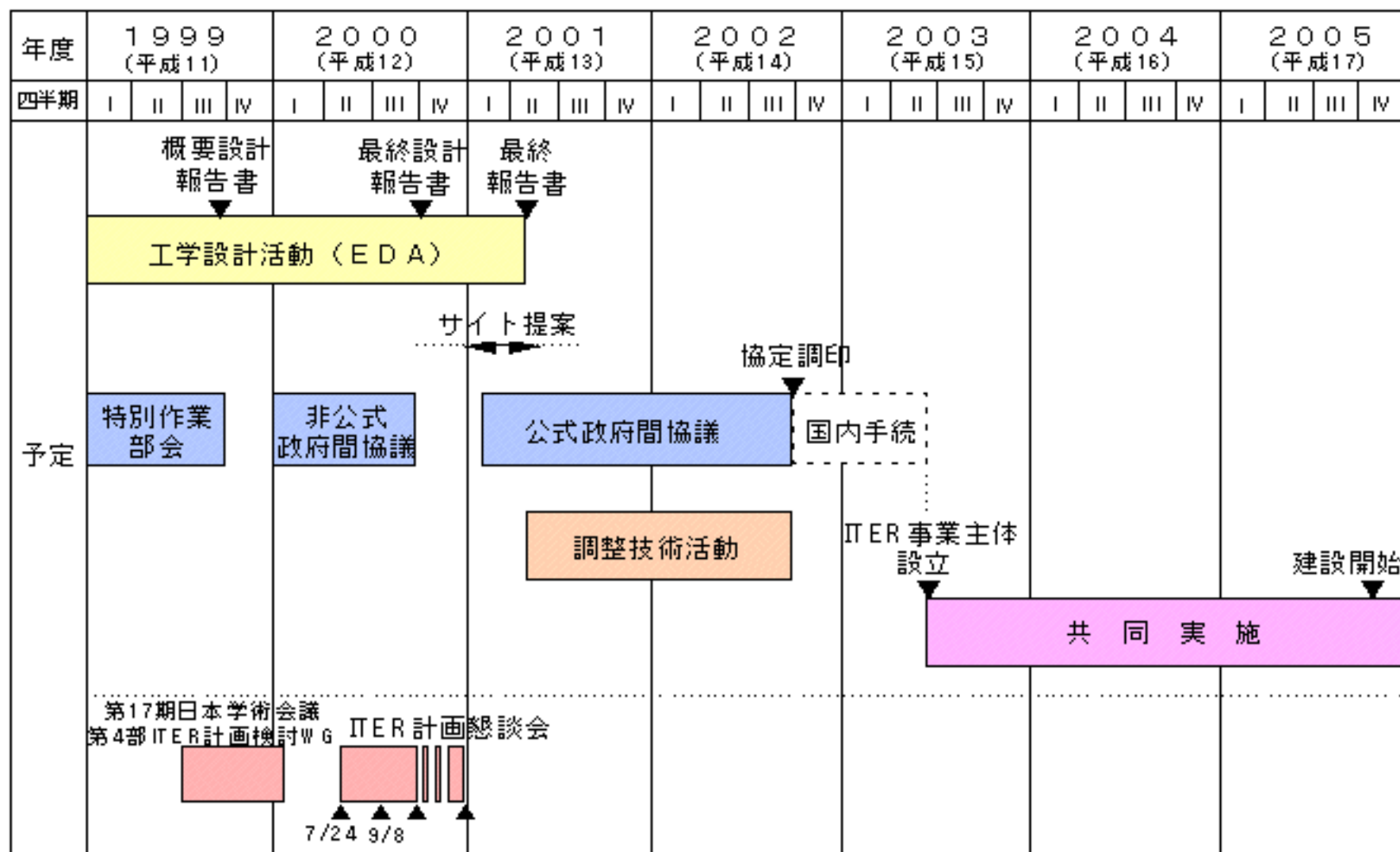


I T E R を 巡 る 最 近 の 状 況 及 び 非 公 式 政 府 間 協 議 の 状 況 に つ い て

平成12年9月8日

科学技術庁原子力局

国際熱核融合実験炉（ITER）参考スケジュール



I T E R誘致を巡る最近の海外の状況

カナダ

- 民間非営利会社である「I T E Rカナダ」がI T E Rのカナダ建設を推進。
- I T E Rカナダは、クラリントン（トロントの東約60km：オンタリオ電力公社の所有地であり敷地内ではC A N D U型原子炉が運転中）への誘致を検討中。

《I T E Rカナダが主張するメリット》

- ・英語圏
- ・大都市（トロント）に近く社会環境が整っている
- ・電気代、人件費、材料費が日本より安い
- ・燃料であるトリチウムの生産拠点であるため、国際間輸送の必要がない
- I T E Rカナダは、本年末迄にカナダ連邦政府及びオンタリオ州政府に正式提案を提出する予定。これを受け連邦政府は春頃までを目途に誘致の是非について判断を行う見込み。

フランス

- 1999年2月の欧州調査団（団長：宮東大教授）によれば、欧州は日本のI T E R建設を期待していた状況。
- 最近、フランスでは、フランス原子力庁（C E A）を中心に、カダラッシュ（マルセイユ市の北約70km）への誘致を検討中。C E Aカダラッシュ原子力研究所では、トカマク型実験装置「トル・スブラ」を運転中。
- E U研究相理事会議長（本年12月末迄）であるシュワルツェンベルグ仏研究大臣は、7月12日、欧州議会「工業、貿易、研究及びエネルギーに関する委員会」における議長所信表明演説の中でI T E Rに言及。
 - ・I T E RのE U域内への誘致の是非の判断はかなり近い将来に行うことが必要
 - ・11月のE U研究相理事会において、I T E R建設に関する法的枠組みを定めるための交渉権限をE U委員会に与えることを審議